

2026夏季大会要項

1. 選手の二重登録について、小学部高学年の部に限り、合計人数15名までは認める。登録選手の追加および変更は開会式当日までとする。
2. 監督は主将を引率の上、試合開始時間の30分前までに所定のメンバー表4枚を本部へ提出しメンバーチェックを受ける。両チーム受付け次第、主将同士のジャンケンで先攻後攻を決める。
3. 試合イニング数および時間は部ごとに次のとおり定め、勝ち逃げルールを適用する。

部	イニング	試合時間
中学部	7回	1時間30分
高学年の部	6回	1時間30分
低学年の部	5回	1時間20分

●試合時間を超えて、新しいイニングには入らない。

●リードしている後攻のチームの攻撃中に制限時間を超えた場合、その時点の打者を最終打者として試合を打ち切る。

4. 1回戦から準決勝までは制限時間終了時、同点の場合は、タイブレーク(無死満塁、継続打順)を1回行い、なお勝敗が決定しない場合は抽選を行う。小学部 低学年においては、攻撃10点で攻守交代制を導入し、表裏にて決着がつかない場合は抽選にて決定する。決勝戦はタイブレークを2回までとし、なお勝敗が決定しない場合は抽選を行う。
5. コールドゲームは次のとおりとする。決勝戦も同様とする。
 - (1) 中学部および小学部 高学年の部 4回 10点差 5回以降 7点差
 - (2) 小学部 低学年の部 3回 10点差 4回以降 7点差
6. 投手の球数制限等について
 - (1) 投手の肘・肩の障害防止を考慮して、1日における投球数の上限は各部ごとに次のとおりとする。
ただし、上限投球数に達した時点での打者が打撃を完了するまで投球を継続できる。
中学部:100球 小学部高学年:70球 小学部低学年:60球
 - (2) ボークを宣告されたときに投球した場合は、投球数としてカウントする。(低学年の部もボーク適用する)
 - (3) 申告敬遠をした場合は投球数としてカウントしない。
 - (4) 投球数カウントは、チーム担当者1名が所定の場所において、相手チームの投球数をカウントする。(審判員はフォローする)
7. アナウンスは高学年は全試合、中学部・低学年は決勝戦のみ行う。(メンバー表受付け次第、本部席にて準備を開始)
8. ベンチ入りができる者は6名以下とする(監督・コーチ2名・スコアラーの他、選手の健康管理のためのマネージャーは2名まで認める)監督・コーチのユニフォームは選手と同じものを着用し、背番号は監督30番・コーチは29番・28番とする。スコアラー及びマネージャーの服装(履物含む)はユニフォーム以外のもので、ベンチ入りにふさわしいものに限る。なおマネージャーは健康管理を目的とするため、選手への指示等はできない。
9. 試合当日、登録書に記載の背番号29番・28番のコーチが不在の場合、特例として臨時コーチのベンチ入りを認める。(臨時コーチは必ずしも置く必要は無い)その場合、臨時コーチは背番号なしのユニフォームを着用し、臨時コーチの名前をメンバー表に記載し提出すること。また監督不在の場合、背番号29番・28番のコーチに限り、監督代行として指揮をとることは可能。その場合は、メンバー表にその旨を記載し提出すること。
10. シートロック時は監督およびコーチ(29番・28番)のみグラウンドに出ることが許可される。
また、グラウンド内の安全を確保するため、バットを使用するノックは1箇所のみとする。
11. ランナーコーチャーについては、監督・コーチ等大人は不可。(低学年の部にも適用する)
12. 選手の安全のため、キャッチャーは必ずファウルカップを着用すること。また小学部の選手の胸部保護パッド着用については、熱中症対策として義務付けではなく、推奨とする。
13. 雨天の場合は、当日第一試合の開始時間 約2時間前に連盟公式HP上(ssnbb.com)で案内する。
14. 試合変更は学校行事に限る(但し、代表者会議当日までに申請したものに限り)。
なお新宿区少年軟式野球連盟から推薦され、出場する大会における試合日程により変更することがある。
15. 塁審は各チームより1名ずつ、後審(または前審)を行う。(但し、当連盟が主催する審判講習会受講者に限り)準決勝・決勝戦は当連盟審判部が全て担当する。塁審の服装は上下とも無地で色は黒または灰色、紺色とする。またマスクを着用する場合、マスクの色は黒または紺とすること(白は厳禁)。
16. 大会中、受動喫煙防止に努め、喫煙可能区域以外での喫煙を厳禁とする。なお、喫煙区域内でも未成年者の前では配慮すること。またユニフォーム着用時の喫煙を禁止とする。
17. その他、2026年度公認野球規則・競技者必携・全軟連規則・新宿区少年軟式野球連盟細則に基づく。

【補足】3回のタイム変更

監督が1試合に投手のもとへ行ける回数は3回までとしており、同一イニングにおいても3回可能であるが、投手の交代の制限は適用しない。(規則書 5.10(2)は適用しない)またタイブレークの元では1回のみタイムが可能である。